

## (秋の交通安全祈願祭・町民大会祝辞:R04・9・21)

改めまして、お晩でございます。

秋の交通安全祈願祭、町民大会に参加をいただき大変ご苦労様です。日頃から交通安全運動の推進にご尽力を頂いておりますことにつきまして、感謝の気持ちを込めて敬意を表したいと思えます。

私事ですが、9月で75歳となりました。6月に高齢者免許更新として、認知機能検査、高齢者実地講習を受けました。90代の方1名、80代2名、私と4名全員、無事合格をしましたが、講師先生から、ブレーキ、アクセルの踏み間違い、前進、バックの間違い、高速道路の逆進と高齢者の事故が多いことと、無理をせず免許返納を考へなければとの話を伺い、あらためて安全運転をしなければとの思いを強くしました。

交通事故死のピークは、昭和46年(1971年)で、今から51年前になります。

全国では、16,765人と大変な犠牲者の数です。昨年は2,636人と15.7%に減少しております。

北海道では、889人とこれも大変な数ですが、昨年は120人と13.5%以下に減っております。

道路網の整備、車両の改良等、安全を重視したいろいろな取組みの影響もあるでしょうが、全国で展開されている、今日のような交通安全の啓発運動を地道に続けてきた成果だと思えます。

しかし、未だに交通事故が多く、年間36万人を超える死傷者が出ている状況が続いているのも事実です。

新聞、テレビでは毎日のように、交通事故死が報道されております。飲酒、居眠り運転、暴走運転によるもの、わき見運転や、ちょっとした油断での事故等、依然として犠牲となるのは、交通弱者である子供たちや高齢者です。特に子供たちの事故は、大きな悲しみとして影響も大きく、私たち大人が守ってあげなければなりません。

運転手が交通安全の意識をしっかり持たなければならない事は第一ですが、家庭、地域、職場等、関係機関が一丸となって本日のような運動を積み重ねていく事が、交通安全運動の推進に大切な事だと思えます。ご出席の皆様には、引き続きご尽力下さいますようお願いをいたします。

ご出席の皆様のご健勝と、事故、事故死がおきませんよう心からご祈念をいたしまして、挨拶といたします。本日は、大変ご苦労様でした。